

8 これまでの人生の振り返りとお金に関する考え方

社会への関心よりはまず家庭と会社

これまでの人生について、全体では、「円満で幸せな家庭を築いた」(72%)、「平等で仲のよい夫婦関係を築いた」(69%)、「子供を社会のために役に立てる人間に育て上げた」(61%)、「勤め先の企業の発展に貢献した」(60%)などが上位に上がっている。自分たちの家庭や会社などに関して相当な自信を持っている。反面、「地球環境や世界平和など国際的な問題の解決に尽力した」(14%)、「恵まれない人々への援助、ボランティア活動に力を入れた」(21%)、「地域の人々の交流や地域社会の発展に貢献した」(34%)など、各種の社会活動については、さほど関心を持ってこなかった人が多いようである。

男性は会社関係、女性は家庭関係に

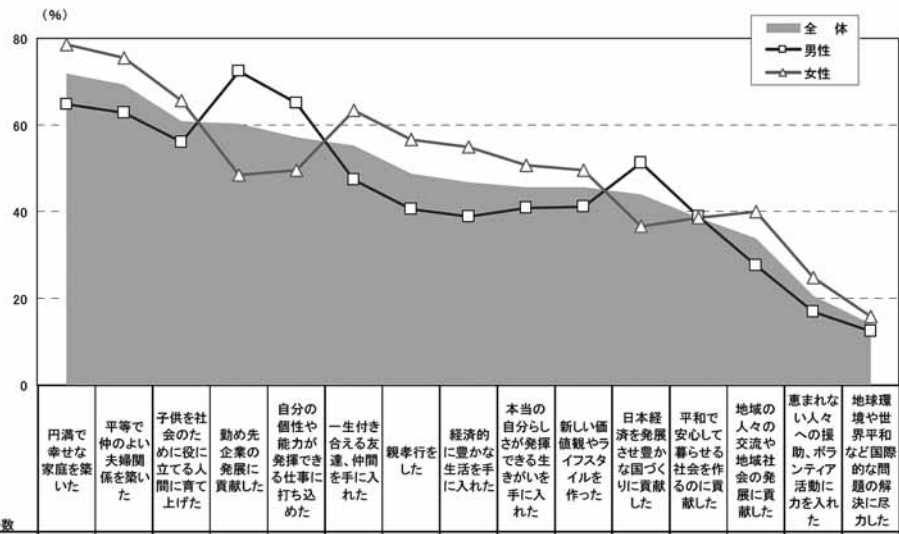
女性に比べると男性では「勤め先企業の発展に貢献した」「自分の個性や能力が発揮できる仕事に打ち込めた」など、会社や仕事関係のポイントが高く、「日本経済を発展させ豊かな国づくりに貢献した」と自信を持っている人も半数を超えている。女性では「円満で幸せな家庭を築いた」「平等で仲のよい夫婦関係を築いた」など家庭関係に力を入れてきたことがうかがえる。また、子供などを通して地域での人とのつながりにも力を入れてきたようで、「一生付き合える友達、仲間を手に入れた」「地域の人々の交流や地域社会の発展に貢献した」などのポイントも全体に比べて5ポイント以上高くなっている。

コラム

団塊世代の妻の大半は一時専業主婦に

男女による意識の違いは、団塊世代の妻の大半が結婚とともに専業主婦となった点にあるとみられる。団塊世代では、短大を中心に進学率が高まり、ウーマンリブなどの運動もあって、女性の平等意識は高まってきたものの、それが社会進出にそのままつながるのではなく、多くの女性たちが結婚後は家庭に入った。女性の年齢別の労働力率をみると、団塊世代の女性たちの20代後半から30代にかけての落ち込みがその前後の世代に比べて最も大きくなっている。いわゆる“M字カーブ”の谷が深いのである。出産を機に家庭に入り子育てに専念し、子供の手が離れると再びパートなどで仕事に復帰する形が、団塊世代の女性の典型となったといえよう。

これまでの人生の自己評価
 (「十分やった」「まあ十分やった」の合計/それぞれ単一回答)

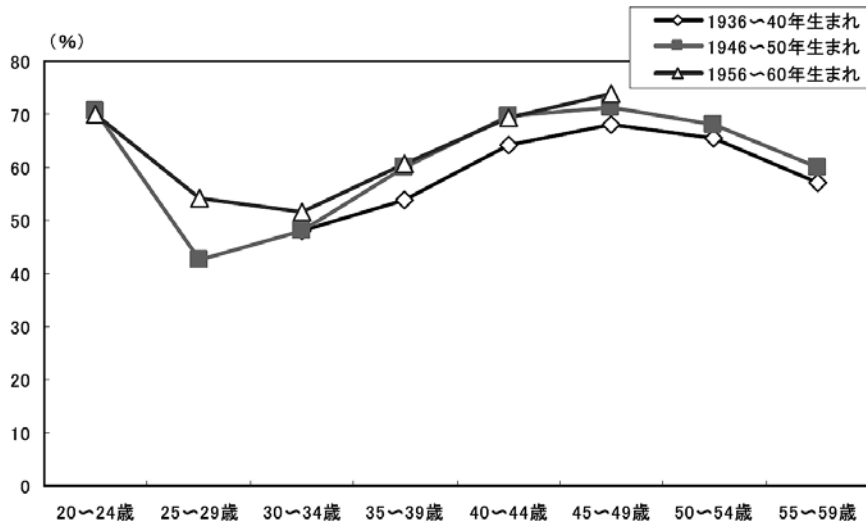


		調査数	円満で幸せな家庭を築いた	平等で仲のよい夫婦関係を築いた	子供を社会のために役に立てる人間に育て上げた	勤め先企業の発展に貢献した	自分の個性や能力が発揮できる仕事に打ち込めた	一生付き合える友達、仲間を手に入れた	親孝行をした	経済的に豊かな生活を手に入れた	本当の自分らしさが発揮できる生きがいを手に入れた	新しい価値観やライフスタイルを作った	日本経済を豊かに国づくりに貢献した	平和で暮らせる社会を作るのに貢献した	地域の交流や地域の発展に貢献した	恵まれない人々への援助、ボランティア活動に力を入れた	地球環境や世界平和などの国際的な問題の解決に尽力した
全体		(n=1,500)	71.7	69.2	60.8	60.4	57.3	55.3	48.6	46.9	45.7	45.5	44.0	38.7	33.7	20.7	14.0
性別	男性	(n=750)	64.7	62.8	56.1	72.3	65.1	47.2	40.5	38.9	40.8	41.2	51.3	38.8	27.6	16.8	12.3
	女性	(n=750)	78.7	75.6	65.5	48.5	49.6	63.3	56.7	54.8	50.7	49.7	36.7	38.7	39.9	24.7	15.7
資産形成状況別	金融資産マイナス	(n=250)	68.0	66.4	56.4	60.0	56.4	48.4	44.8	26.0	35.2	40.4	35.6	31.6	35.2	22.8	12.0
	金融資産0～2500万円未満/収入400万円未満	(n=430)	63.7	61.2	55.6	52.6	48.8	47.4	41.2	30.7	37.9	38.1	39.3	37.0	31.6	18.1	11.9
	金融資産0～2500万円未満/収入400万円以上	(n=346)	75.1	73.1	65.9	67.1	63.9	63.0	47.1	49.1	52.3	47.4	45.7	40.2	32.9	21.1	15.0
	金融資産2500万円～5000万円未満	(n=299)	77.9	75.3	65.6	59.5	58.2	63.9	57.5	65.9	49.5	51.5	48.8	40.5	32.8	20.4	13.0
	金融資産5000万円以上	(n=175)	78.9	74.9	61.7	68.6	65.1	54.3	60.0	79.4	60.6	56.6	56.0	47.4	40.0	24.0	21.7

50.0・・・全体値より5ポイント以上高い
 50.0・・・全体値より5ポイント以上低い

(単位:%)

女性の労働力比率



出典：総務省統計局『労働力調査』(2005年)

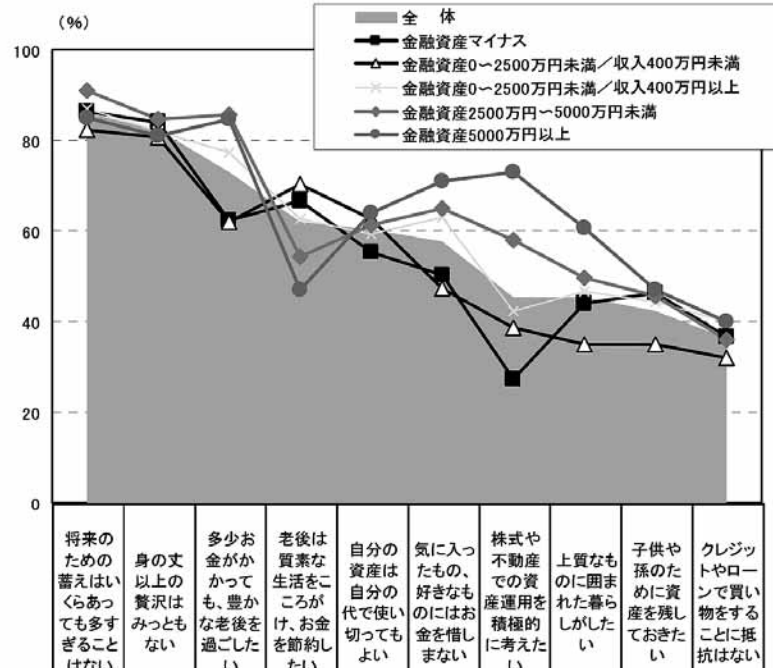
「子供に資産を残したい」は半数以下

お金に対する考え方では、「将来のための蓄えはいくらあっても多過ぎることはない」が86%でトップであった。注目しておきたいのは2番目と3番目で、「身の丈以上の贅沢はみっともない」(82%)としながらも、「多少お金がかかっても、豊かな老後を過ごしたい」(73%)と続いている。一見矛盾する回答を両方選んだ人が多く、メリハリのついた消費をイメージさせる。

自分たちが築いた資産をどうしたいかという点では、「子供のために資産を残しておきたい」は43%に対して、「自分の資産は自分の代で使い切ってもよい」が61%と過半数を占めた。

お金に対する考え方

(「そう思う」「まあそう思う」の合計/それぞれ単一回答)



		調査数	将来のための蓄えはいくらあっても多すぎることはない	身の丈以上の贅沢はみつともない	多少お金がかかっても、豊かな老後を通したい	老後は質素な生活をこころがけ、お金を節約したい	自分の資産は自分の代で使い切ってもよい	気に入ったもの、好きなものにはお金を惜しまない	株式や不動産での資産運用を積極的に考えたい	上質なものに囲まれた暮らしがしたい	子供や孫のために資産を残しておきたい	クレジットやローンで買い物をすることに抵抗はない
全体		(n=1,500)	86.1	82.4	72.9	62.1	60.5	57.7	45.4	45.2	42.5	36.3
性別	男性	(n=750)	83.2	84.1	67.5	67.6	62.8	53.2	49.1	39.5	40.9	39.1
	女性	(n=750)	89.1	80.7	78.4	56.5	58.3	62.3	41.7	50.9	44.1	33.6
資産形成状況別	金融資産マイナス	(n=250)	86.4	84.0	62.4	66.8	55.2	50.4	27.2	44.0	46.4	36.8
	金融資産0~2500万円未満/収入400万円未満	(n=430)	82.3	80.7	62.1	70.5	62.8	47.4	38.6	35.1	34.9	31.9
	金融資産0~2500万円未満/収入400万円以上	(n=346)	87.0	82.1	77.2	62.7	59.2	63.0	42.2	46.8	44.2	39.9
	金融資産2500万円~5000万円未満	(n=299)	91.0	84.6	85.6	54.2	61.2	64.9	57.9	49.8	45.8	36.1
	金融資産5000万円以上	(n=175)	85.1	81.1	84.6	46.9	64.0	70.9	73.1	60.6	46.9	40.0

50.0 ... 全体値より5ポイント以上高い
 50.0 ... 全体値より5ポイント以上低い

(単位: %)